

町田市町内会・自治会連合会 会長研修会報告

日時：2025年11月25日（火）～26日（水）

研修訪問先：25日 山梨県立リニア見学センター 山梨県富士科学研究所
26日 静岡県富士山世界遺産センター

【内容】

①山梨リニア見学センター

リニアモーターカーの仕組み等の解説。

ミニチュアによる超伝導体の浮上走行実験見学。

リニアの歴史

○500キロ走行を実際に見学できると聞いていましたが、研修当日は実施しておらず、

残念。橋本駅を通ることになっていますが、完成はいつのことやら…。

大阪までの開通は2040年代を予定とのこと。

②山梨県富士科学研究所

富士山噴火の歴史

溶岩や噴石の展示

火山の解説 富士山の生物 など

○ちょうど小学生の団体があり、解説担当の方々はそちらで手いっぱい。かまってもらえず、自習状態。

③宿舎にて山梨県職員の方による火山防災講話（これは非常に有意義でした）

A・富士山は江戸時代の「宝永噴火」（1707年）以来噴火していないが、まだ若い火山であり、いつか必ず噴火する。対策と準備は不可欠。

B・噴火した場合

ア・富士から25キロメートルくらいの範囲に噴石。大きなものは木造家屋の屋根を突き破る。

イ・富士から60キロメートルの範囲は大きな火山灰が積もる。この火山灰は多く積もれば建物を潰す。

ウ・富士山から100キロメートルの範囲は細かい火山灰が降る。目・のど・気管支に異常を引き起こす。

エ・噴火が長期化すれば（2週間程度で）東京全域に被害。

C・知っておくべきこと（近くの噴火）

ア・噴火現象はさまざま。形態によって対策が異なる。

溶岩流→ゆっくり下ってくるが、広い範囲を埋め尽くす
火碎流→下てくるスピードが極端に速い。通った場所を焼き尽くす
動画撮影などのんびりしていると飲み込まれる。雲仙普賢岳噴火の際、取材
していたマスコミの人がかなりやられた。彼らを避難させようとしていた消
防の人も犠牲になった。

イ・火口はどこにできるかわからない。

2015年に新たな火口が発見され、山梨県のハザードマップは更新を余儀な
くされた。どこが火口になるかは全く予測不能。

D・知っておくべきこと（離れていても降灰範囲の場所）

ア・宝永噴火は江戸に2センチの降灰があった。

火山灰はガラス繊維であり、当然雪ではなく溶けない。少しの降灰でも車は走
れなくなる。救援物資を送るのにも困難をきたす。

イ・非常に滑るので、慣れない人には歩くのも難しくなる。

心配されること→上水道・下水道の障害。火力発電所の減力、停電。

宝永噴火の灰の全量は東日本大震災のゴミの十倍に匹敵する。
処理が困難。

斜面に降った灰の上に雨が降ると土石流を引き起こす。

ウ・健康不安

目・のどを痛める可能性が大きい。マスク・ゴーグルの常備を。

エ・生活不安

しばらく出歩けなくなる可能性が高い。1週間程度の水・食料の備蓄を。

○大変不安になる話でした。今後町内会から市にも対策を要望する必要を感じます。

誰にも経験のない、しかもいつか必ず来る災害ですので、心しておくべきことと思
います。

④富士山世界遺産センター

富士山の歴史、自然環境、富士をテーマとした文学などを解説。

報告 小林 洋介